

通し番号	5147
------	------

分類番号	R04-97-32-08
------	--------------

天然採苗によるトリガイ養殖	
[要約] アンスラサイト（無煙炭の一種で二枚貝養殖の基質や濾過材として用いられる）を敷いたプラスチック容器を用いて、東京内湾でのトリガイ稚貝の天然採苗と無給餌垂下養殖が可能であった。約9か月間で良質のトリガイを育成できた。トリガイのへい死は冬季に多くクロロフィルの低下との関連が推測された。	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先046-882-2314

[背景・ねらい]

東京内湾の漁業振興のため、2021年6月から2023年5月にかけて横須賀市新安浦港でトリガイの天然採苗試験および得られた稚貝を用いた養殖試験を行った。

[成果の内容・特徴]

- 1 アンスラサイト（無煙炭の一種で二枚貝養殖の基質や濾過材として用いられる）をプラスチック容器に10cm敷いて海中に垂下したところ、トリガイの稚貝を高密度に採取（図1）でき、また無給餌養殖が可能であった。種苗は水深4mで多く採取された一方で、養殖の適水深は2mと考えられた。（図2，3）。容器の付着生物を除去するために夏季は月2回、秋～春は月1回程度の掃除が必要であった。
- 2 水深2mと4mで水質に大きな違いはなかった（図4）。トリガイのへい死は冬季に多くクロロフィルの低下との関係が推測された。貧酸素状態は観測されなかった。
- 3 約9か月間の垂下養殖で、殻付き重量 101 ± 21 g、貝肉重量 15 ± 4 g（殻付き重量の $15 \pm 3\%$ ； $n=15$ ）のトリガイが得られ（図5）、試食した横須賀市東部漁業協同組合の水産物直売所職員と漁業者等6名の評価は非常に高かった。

[成果の活用面・留意点]

- 1 天然採苗で稚貝を確保しトリガイの無給餌垂下養殖を行うことが可能である。
- 2 養殖容器の付着物除去等、維持管理作業の省力化が望まれる。

[具体的データ]

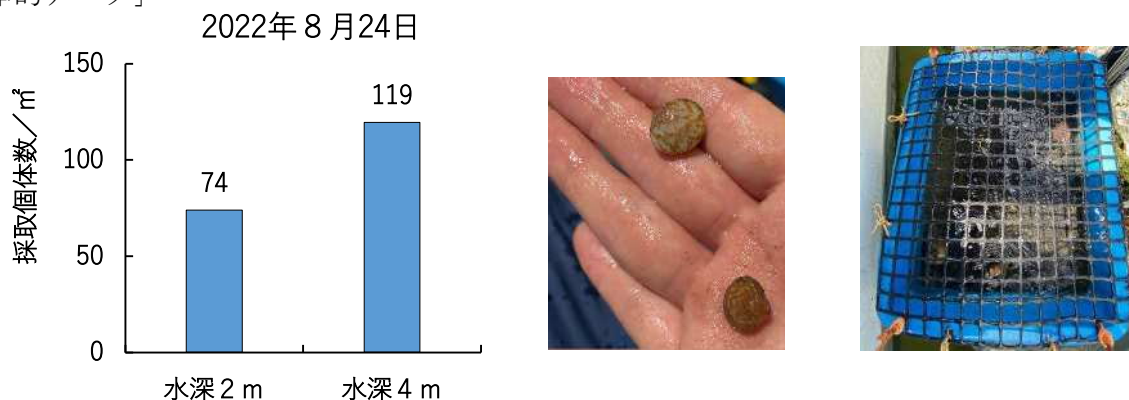


図1 容器内に着生したトリガイ稚貝密度（左）、採取された稚貝（中）および採集・養殖容器（右）

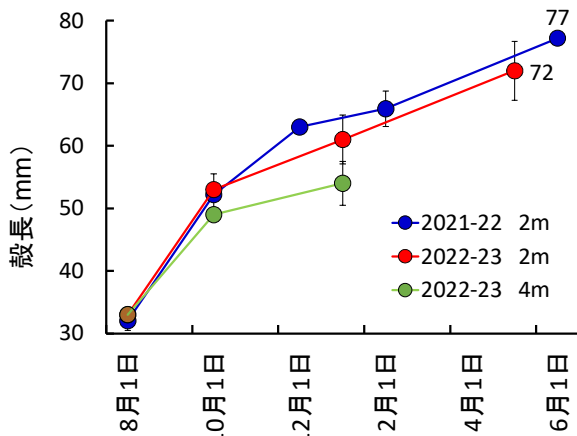


図2 トリガイの成長

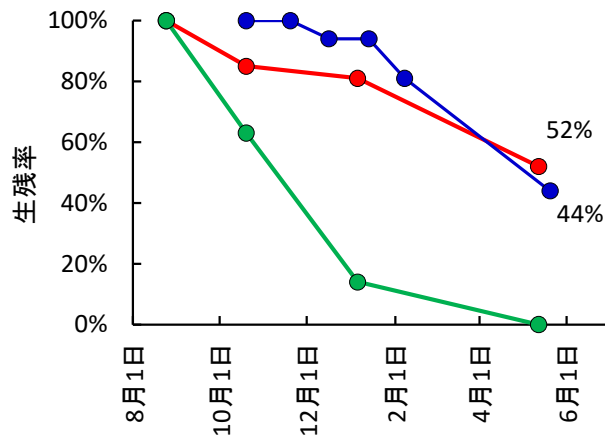


図3 トリガイの生残

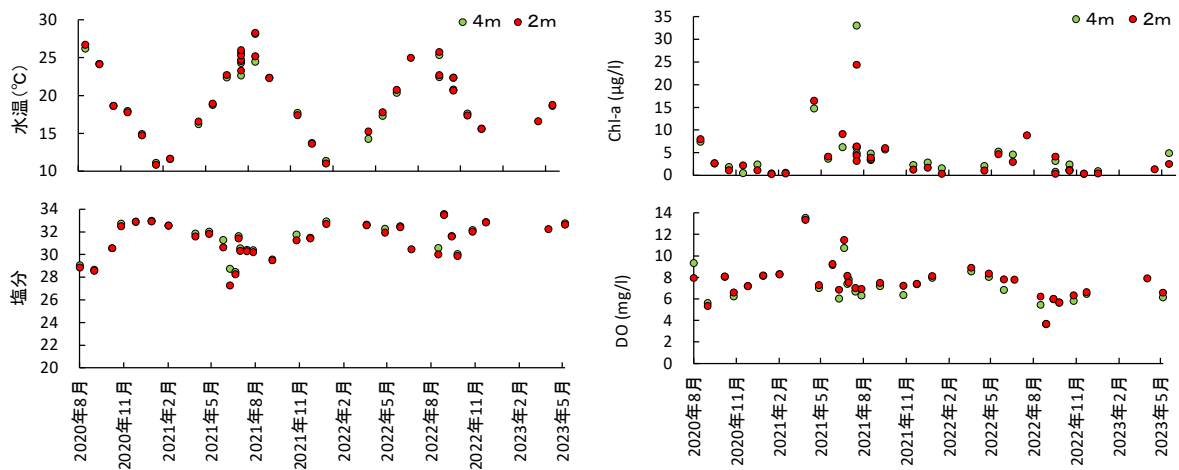


図4 新安浦港の水温、塩分、Chl-a、DO (2020年6月～2023年5月)



図5 トリガイの試食 (2023年5月12日)

[資料名] 令和4年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3) 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発報告書

[研究課題名] 浅海域の貧酸素化に対する水産有用種の生存技術の開発

[研究期間] 令和3～4年度

[研究者担当名] 木下淳司

[協力・分担関係] 本研究は、水産庁・水研機構からの委託事業の一環として行った。